

令和7年2月28日

保護者様

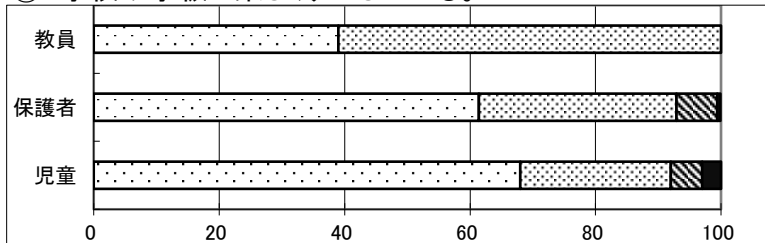
千葉市立有吉小学校
校長 笹本 博紀

令和6年度 学校評価アンケート集計について

12月に実施しました学校評価アンケートの集計結果についてお知らせします。
寄せられたご意見は今後の学校で指導する際の参考にさせていただきます。
グラフの横軸は割合を表し、左にいくほど肯定的な意見になっています。

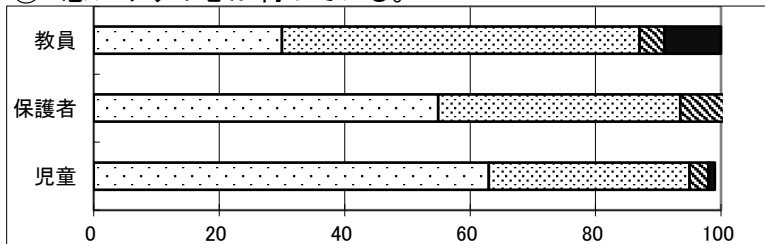
そう思う 少しそう思う あまり思わない そう思わない

① 学校や学級で楽しくすごしている。



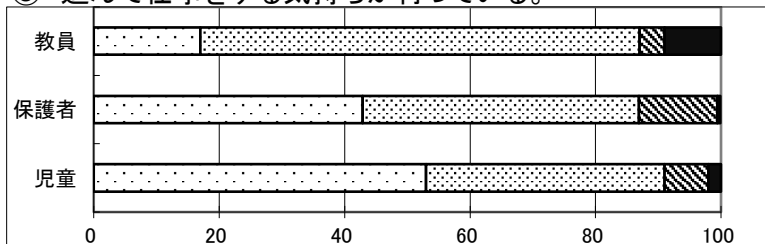
9割の児童が肯定的な回答をしています。しかし、約1割の児童が否定的な回答をしています。全ての児童がよりよい学校生活を過ごせるよう、教育活動及び教育相談体制の更なる充実に努めていきます。

② 思いやりの心が育っている。



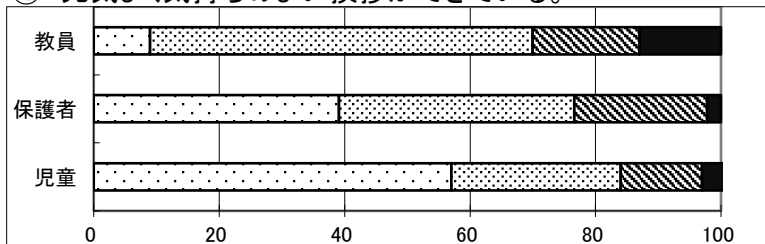
保護者・児童ともほとんどが肯定的な回答がほとんどです。教職員にとっては課題を感じているため、道徳教育の充実と日々の教育活動と学校行事の通して、思いやりの心が更に育つような工夫をしていきます。

③ 進んで仕事をする気持ちが育っている。



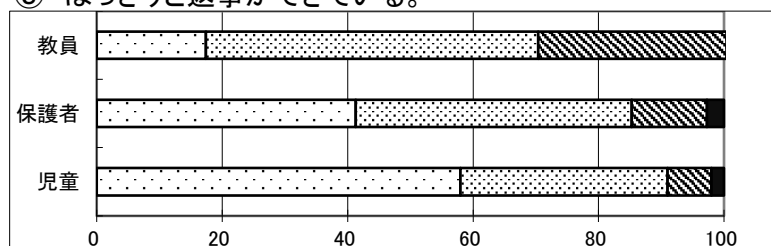
保護者・教職員と差があるものの、9割の児童が肯定的な回答をしています。児童の頑張りを認め、励ましの言葉をかけ、自己肯定感を高めていくことが重要と考えています。

④ 元気よく気持ちのよい挨拶ができています。



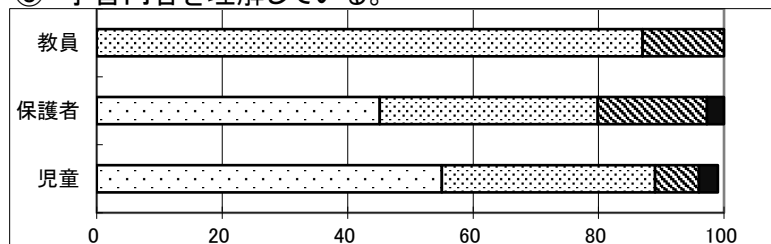
他の項目に比べると肯定的な回答がやや低くなっています。日々の学校生活や道徳教育の充実させることで、挨拶の大切さ実感できるようにしていきます。また、運営委員会の挨拶運動や挨拶の啓発活動の機会を利用して、挨拶の習慣化を図ります。

⑤ はっきりと返事ができている。



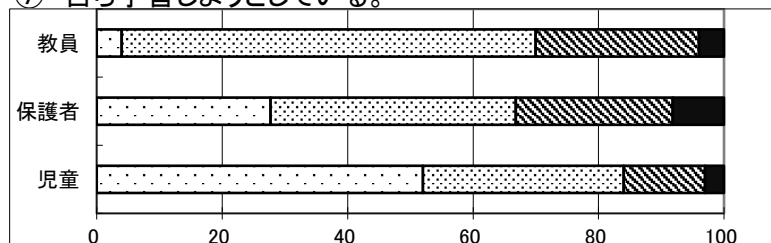
挨拶に比べると肯定的な回答が増えています。挨拶と同様、返事も円滑なコミュニケーションを取るための大切なものと考えています。日々の教育活動で、より意識ができるように働きかけていきます。

⑥ 学習内容を理解している。



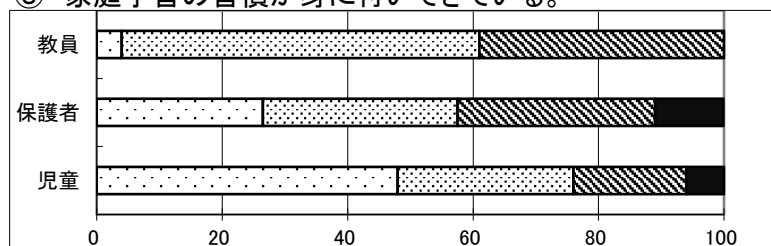
児童は概ね肯定的な回答をしています。「わかる授業」に努め、一人一人の児童にきめ細かな指導をしていきます。学習内容の習得状況については、個人面談等で情報共有できるようにしていきます。

⑦ 自ら学習しようとしている。



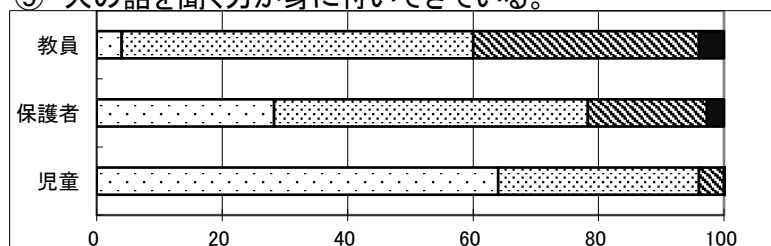
児童・保護者の回答が他の項目に比べて低くなっています。児童が学習の必要感を感じられるような工夫をしていきます。

⑧ 家庭学習の習慣が身に付いてきている。



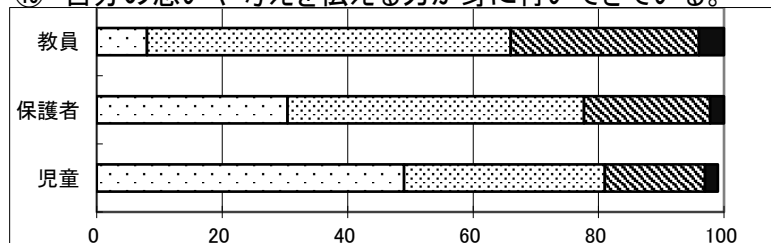
「自ら学習しようとしている」の項目と同様、学習の必要感を感じられるような声かけを工夫していきます。家庭学習の取り組み方などの例についても紹介するなどの取組も進めます。

⑨ 人の話を聞く力が身に付いてきている。



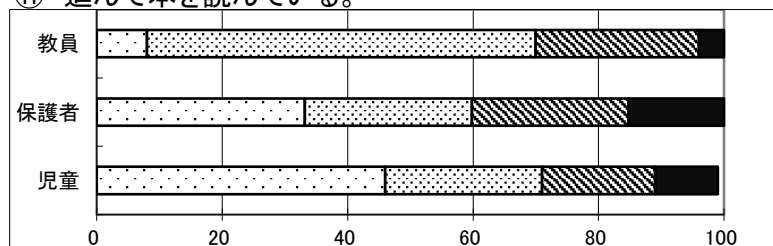
児童・保護者・教職員で回答に差があります。教職員の話だけではなく、友達どうしの話をしっかりと聞く大切さも伝え、日々の教育活動の中で聞く力を養っていけるようにしていきます。

⑩ 自分の思いや考えを伝える力が身に付いてきている。



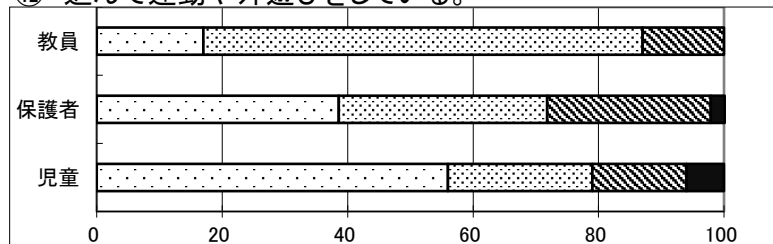
2割の児童が否定的な回答をしています。日々の教育活動の中で、自分の思いや考えを伝える機会を増やすとともに、国語の学習を中心に、伝え方の技能を習得できるような工夫をしていきます。

⑪ 進んで本を読んでいる。



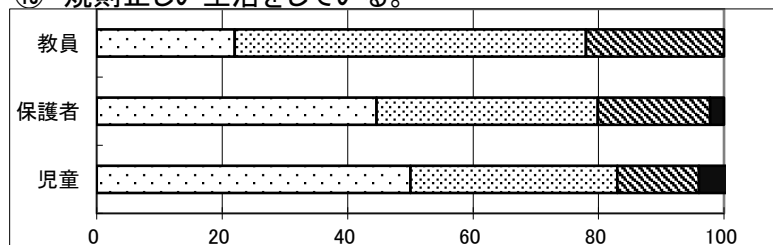
ギガタブの活用が増えたことが原因の一つであると考えます。朝学習の時間などに読書の時間を設けるなど、意図的に読書の時間を増やしていくことなどの取組をしていきます。

⑫ 進んで運動や外遊びをしている。



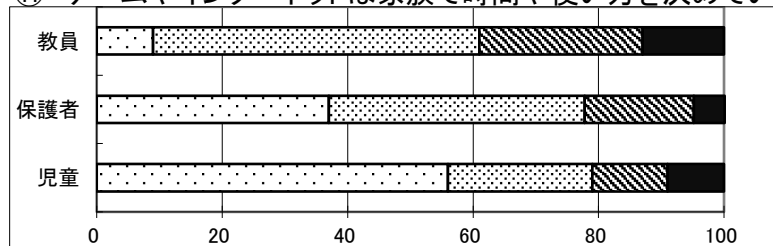
運動や外遊びをする児童を多く見かけますが、二極化しているという課題もあります。体育学習の充実を図ったり、体育委員会を中心として外遊びの啓発活動したりすることで、運動に親しむ児童を増やしていきます。

⑬ 規則正しい生活をしている。



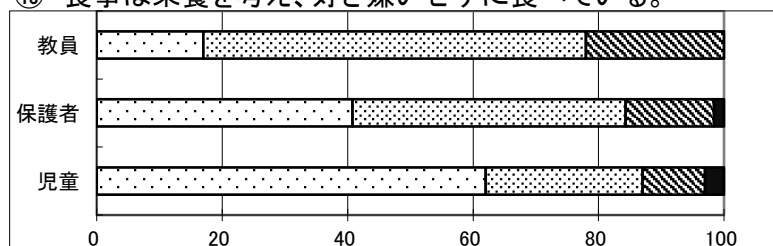
児童・保護者・教職員とも8割の回答で肯定的に捉えています。学級活動や保健学習をはじめ、学校生活の場の様々な場面で規則正しい生活についての啓発活動を行っています。

⑭ ゲームやインターネットは家族で時間や使い方を決めている。



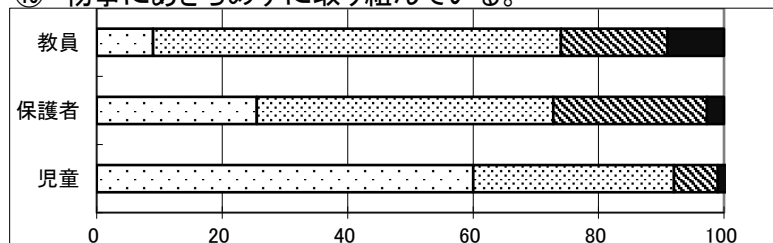
本校だけではなく、全国的に喫緊の課題であります。情報モラル教育を充実させるとともに、外部講師を招いたネット安全教室等の学びの場を儲け、児童に問題意識をもたせるようにしていきます。

⑮ 食事は栄養を考え、好き嫌いせずに食べている。



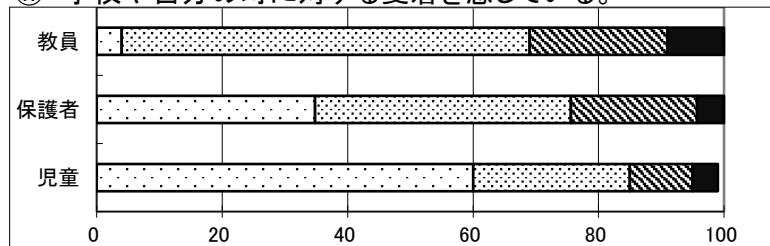
児童、保護者とも概ね肯定的な回答をしています。食育指導の機会を確実に確保するとともに、好き嫌いについては児童の実態をふまえながら、じっくりと取り組んでいきます。

⑯ 物事にあきらめずに取り組んでいる。



児童については9割が肯定的な回答をしています。児童・教職員との回答に差がありますが、児童の頑張りを大いに認め、児童が達成感や充実感を味わえるようにしていきます。

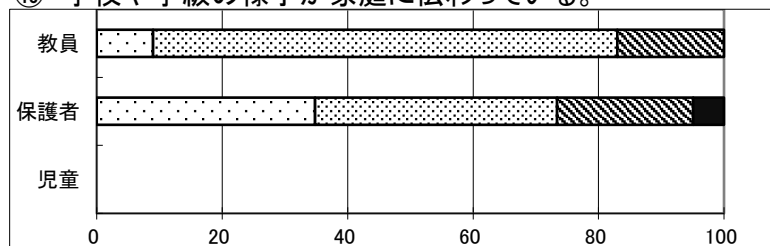
⑰ 学校や自分の町に対する愛着を感じている。



総合的な学習の時間や生活科の学習を中心に、地域を題材とした学習の機会を充実させ、学校や自分たちの町のよさを発見し、愛着をもてるような学習の工夫をしていきます。

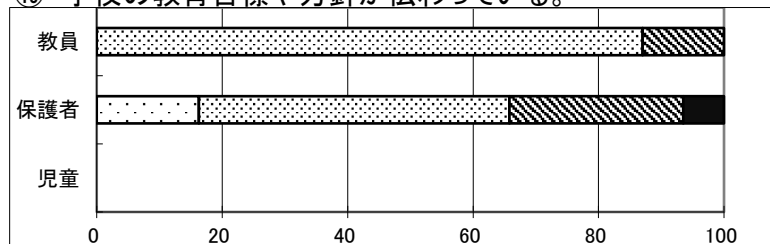
以降は、教員・保護者のみの設問となります。

⑱ 学校や学級の様子が家庭に伝わっている。



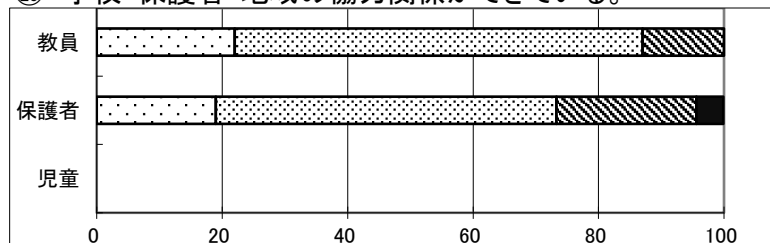
個人面談や参観の機会だけではなく、必要に応じて家庭との情報共有の時間を設け、学習ボランティアをはじめ、学校の様子を伝えられる場を設定できるようにしていきます。

⑲ 学校の教育目標や方針が伝わっている。



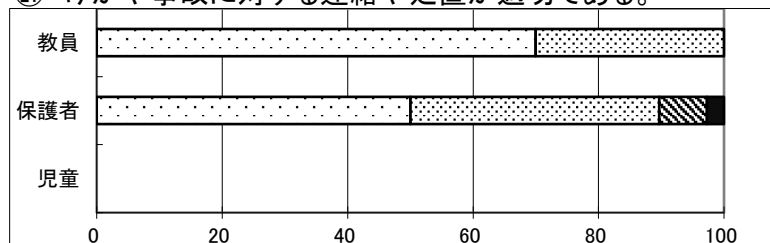
4割弱の方が否定的な回答をしています。学校・学年だより、学習参観、学校行事の機会を通して、学校の教育方針がより伝わるよう工夫していきます。

⑳ 学校・保護者・地域の協力関係ができている。



保護者・教職員の回答に差がでています。個人面談や学習参観・懇談会だけではなく、定期的に家庭との情報共有の時間を設定できるようにするなど工夫をしていきます。

㉑ けがや事故に対する連絡や処置が適切である。



安全・安心を一番の問題とし、学校全体として取り組んでいます。9割の方が肯定的な回答をしています。全員の児童が安全で安心して過ごせるように努力してまいります。

多くの項目にもかかわらず、ご回答いただきありがとうございました。この結果をもとに今年度の残りの日々から留意して教育活動を進めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

